

親字	音訓	甲骨文・金文・古文・篆書 (殷・西周・春秋・戦国・秦)	説文解字 篆書	隷書 (前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
函	カン はこ								人①
函	②								②
刀	トウ かたな								教2常①
刃	ジン は やいば								常①
刃	②								②
刈	カイ ガイ かり								常①
苜	①								①
刈	②								②
切	セツ サイ きる								教2常①
切									
分	ブン・ブ ブン・わか つ・わかる ・わかれる ・わける								教2常①
分									
分									

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん こころ	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
粘葉本朗詠	節用	口6			明治の漢字							干祿(通) 中国・台湾
												函 香港
元暦萬葉①	節用	刀0		坊っちゃん								戦国・包山楚簡 中・台・香
尊門親王	節用	刀0		坊っちゃん						○		江戸・節用 中国
												刃 台湾
元暦萬葉①	再板農業全書	刀2		坊っちゃん								刈 中・台・香
太政大臣殿 歌合②	農稼行事											苜 中・台・香
墨流本朗詠		ノ1										刈 香港 中国・台湾
粘葉本朗詠	節用	刀2		坊っちゃん	教科書							切 干祿(通) 中国・台湾
												切 香港
粘葉本朗詠	節用	刀2		坊っちゃん	陸軍							分 干祿(通) 中国・香港
												分 台湾

【函】説文篆文には2種の字体がある。1つは「マ+口+彡」、もう1つは俗体とされている字で「肉+今」の字体。「マ+口+彡」と「函」は字体が一致しない。白川静説では「マ+口+彡」と「函」は元々は別字で、発音が同じために混用されたとする。「肉+今」の字体は楚上楚竹書などの楚の字体

と馬王堆にある。日本の人名用漢字の字体は康熙字典に由来し、中国の字体は唐代の楷書に由来するようだ。  
【刈】説文では「刈」の或体となっている。日本では「刈」にくさかんむりをつけて「苜」の字体を使うことが多い。  
【分】この字の「刀」は南北朝期あたりに筆順と字体が変わ

る。草書の書き方の影響を行書、楷書が受けたのだろうか。その字体は干祿字書で〈通〉とされている。この字は文字通り分けるのだから、本来、上部の屋根がくっついてはいけな。くつつく字体は江戸に現れる。そのいけない字体を漱石が踏襲しているが、同時に草書の字体も使っている。

※当用漢字字体表の下の○×は、複数の字体がある字種のうち昭和24年当時、岩田母型製造所での母型の有無を示す。

親字	音訓	甲骨文・金文・古文・篆書 (殷・西周・春秋・戦国・秦)	説文解字 篆書	隷書 (前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
刊	カン けずる きざむ								趙志集
葉	カン しおり								
刊									
刑	ケイ ギョウ しおき								聶晉指歸
刑									
列	レツ つらなる つらねる								王勃詩序
初	ショウ・うい ・そめる はじめる・は じめて・は つ・うぶ								法華義疏
判	ハン ハン わけ								最澄・招来目録

【刊】説文解字では「葉」と「葉」を異体字としており、康熙字典では「葉」を「刊」と同字としている。偏の「干」の縦線を左に曲げることがある。

【刑】説文に「劉(くびき)也」とある。説文には別に「井」に従う字があり、「罰鼻(刑)也」とある。

【初】南北朝から誤って示偏が書かれることが多くなる。法華義疏では偏に「禾」を書いている。江戸版本では示偏が圧倒的で、衣偏の使用例がみつからないほど。漱石は示偏を書いている。法輪寺切は示偏だとしてもおかしい字体。

【判】偏の縦線は唐代まではまっすぐに書き、左に流すもの

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん こころ	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
												刊 中・台・香
												葉 中国・台湾
												葉 香港
												刑 中・台・香
												列 漢・敦煌漢簡 中・台・香
												初 平安・法輪寺切 中国・台湾
												判 北宋・米芾 中国・台湾
												判 香港

ではなかったようだ。左に流している例が確認できるのは北宋。日本でも上代ではまっすぐに書いている。康熙字典はまっすぐだが、中国の印刷字体は左に流している。日本の印刷字体ではまっすぐなのと左にながす例が半々くらいだった。文部省活字も当用漢字表も左に流している。

※当用漢字字体表の下の○×は、複数の字体がある字種のうち昭和24年当時、岩田母型製造所での母型の有無を示す。

親字	音訓	甲骨文・金文・古文・篆書 (殷・西周・春秋・戦国・秦)	説文解字 篆書	隷書 (前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
別	ベツ わかれる								王勃詩序
									元詳造像記
利	リ きく すどい とし								王勃詩序
券	ケン わりふ								千祿字書
									五經・刀部
刻	コク きざむ とき								王勃詩序
									李超墓誌
									皇甫凝碑
刷	サツ する はく								昭仁寺碑
									千祿字書
刺	シ ささる さし とげ								池陽令張君碑
									化度寺碑
									五經・刀部

【別】康熙字典では「別」を「別」の本字とし「夬」を「別」の古文とする。説文解字には「別」と「夬」の関係については記述がない。  
 【利】説文解字の大徐本と段注本で古文の字体がわずかに異なる。

【刻】説文解字の大徐本に古文がなく段注本で補っている。説文、五經文字、康熙字典の一画目は共に横線。智永千字文の行書、瑠玉集や粘葉本朗詠では3~4画の筆順が現在とは逆。楷書もこのような筆順で書かれていたのかもしれない。智永千字文の行書は偏の最終2画が「冫」の最終2画のように上

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん こころ	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
別												別
												中・台・香
利												利
												西周・利段
												中・台・香
券												券
												千祿(通)
												中国・台湾
刻												刻
												中国・台湾
刷												刷
												中・台・香
刺												刺
												五經(訛)
												中・台・香

の方に書かれている。宋元以来俗字譜にもこのような異体字が見える。  
 【刺】拓本の五經文字と江戸期の版本の五經文字の字体が異なる。



親字	音訓	甲骨文・金文・古文・篆書 (殷・西周・春秋・戦国・秦)	説文解字 篆書	隷書 (前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
剗	テイ そる								
劍	ケン つるぎ								
劍	劔								
劔	劔								
劔	劔								
剛	ゴウ かたい こわい つよい								
劑	ザイ								
劑									
剝	ハク はがす はく はがれる はげる								
剝									
剖	ボウ ほく まく わける								

【剗】説文解字と五経文字に「剗+弟」の字体で載っており説文解字に「俗別作剗」とある。

【劔】「劔・劔・劔・劔・劔・劔・劔・劔」などの異体字がある。説文解字には「刀部」に分類されているが、五経文字には「刀部」にある。「劔」の部分の現在のように書くように

なったのは中国では宋代、日本では鎌倉時代からのようだ。漱石は2種類の字体を書いている。

【剛】最澄が旁を「寸」とする字体を書いている。空海も灌頂記でこの字体を書き、後に藤原忠親もこの字体を書いている。これは中国には例のない異体字である。

平安中期 から 室町	江戸版本 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん ころ	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
											剗 剗 中国・台湾 香港
											劔 劔 潘字要覧(正体) 中国
											劔 劔 教科書(正字) 台湾・香港
											劔 劔 陸軍(正体) 清・備前逸史
											剛 剛 干禄(通) 中国
											剛 剛 最澄・空海講来目録 台湾・香港
											劑 劑 江戸・庭訓往来 中国
											劑 劑 台湾 香港
											剝 剝 中国
											剝 剝 台湾 香港
											剖 剖 香港 中国・台湾

【剗】2010年(平成22年)に常用漢字表に追加された。「剗」と「剗」は異体字。1983年のJIS改定で第一水準に登録されたのは「剗」。2000年に国語審議会が『表外漢字字体表』を答申した際に、「印刷標準字体」として認定したのが「剗」。2004年にJIS第三水準に「剗」が登録された。2010年に常用漢字に

追加された字体は「剗」だが、手書きでは「剗」でも差し支えないとされる。要するに、明朝体で印刷する字体は「剗」、手で書く字体は「剗」ということ。漱石は手書き字体の「剗」を書き、太宰は印刷用字体の「剗」を手書きしている。